

8/15 イタリア上陸

関西国際空港搭乗口、朝10時、心配なのを隠しながら「頑張って！楽しんでおいで！」と笑って見送ってくれる家族の顔を一瞬だけ見てゲートへ。それ以上みると涙がこぼれてしまいそうだったからです。でも、入口寸前で最後に振り返った時には止まらない涙。ごしごし拭いて無理矢理笑って手を振りました。20年間、ずっと家族と暮らしてきた私にとって、初めての一人飛行機、海外は、想像していたよりもずっと不安なスタートでした。

そして18時、ミラノマルペンサ空港に到着しました。空港送迎バスのあるホテルだったため、ホテルに連絡をしてバスを待ちます。20分ほどで、強面なおじさんが運転する車がハイスピードでやってきました。「スピードだしすぎ！衝突する！」とハラハラしていたのですが、イタリアではあれが普通の運転だということを、この時はまだ知りませんでした。大抵の車が普通の道を80キロほどで走り、それも車間距離が近い！結構ハラハラします。

10分ほどで小さな可愛いホテルに到着しました。午後8時でこの明るさ。



早速Wi-Fiをつなぎ、家族や先生に無事を報告。iPhoneのアプリLINEを使って感動！日本にいるかのように普通に通話ができます。素晴らしい。ここで、携帯を充電しようとイタリア用の変換プラグを差し込むが、コンセントの穴に入らない・・・どうやら使えない様子なので、フロントで貸してもらって一安心。

翌朝、それを返そうとするとフロントのお兄さんが「それあげる！」と言うので、お言葉に甘えて頂いてしまいました。重宝させてもらっています。朝食付きだったので、クロワッサンと紅茶、ヨーグルトを食べているとまたも、フロントの方が「お昼に食べたらいよいよ！」とクロワッサンを袋に入れて持たせてくれました。前日と同じ運転手さんに送迎して頂き、最後に「Grazie!!(ありがとう)」と言うと、彼はニコッと笑って、握手、ハグをしてくれました。素敵な

ホテルでした。

お昼、ミラノの中央駅から1週間滞在するウディネのアパートに向けて列車にのりこみました。



新しくてきれいな列車に心を躍らせながら席につくと、女性に紙切れを渡されました。何かわからないまま、うけるとししばらくして再び私の前に来てお金を催促するのです。「no」と言うと紙切れをしゃくりとってさっさと下車していきました。ドキッとしました。

数時間列車に揺られ、乗り換え駅の到着時間が近づいてきました。降りる準備をしているにもかかわらず、時間になっても駅につきません。「乗り過ごした・・・?」とあたふたして、近くにいた老夫婦に尋ねました。すると「その駅はまだだよ。イタリアの列車はスローなんだ。君が降りる時に知らせてあげるよ。」と。丁度席が空いていたので、その老夫婦とベネチアメストレ駅までご一緒させてもらいました。

結局30分ほど遅れて到着。私が教えた「さよなら」を言ってお別れしました。そして無事ウディネの駅に到着、数田さんと合流することができました。

こんな感じでイタリア留学はスタートしました。いろんな場所で助けてくれた人に感謝です。